

ウリ類退緑黄化ウイルス(CCYV)(仮称) 特集

病原ウイルス

CCYV(ウリ類退緑黄化ウイルス)(仮称)

病名

キュウリ → キュウリ退緑黄化病
メロン → メロン退緑黄化病
スイカ → スイカ退緑えそ病(仮称)

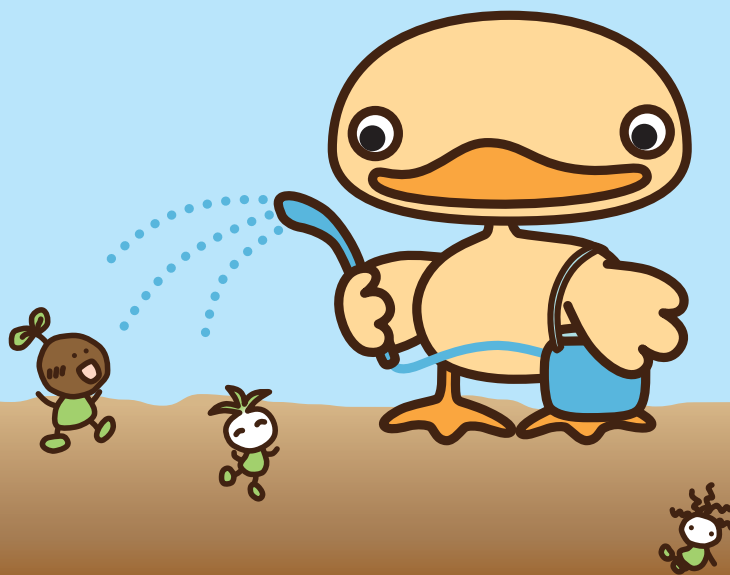


伝搬方法

タバココナジラミバイオタイプQ及びBが媒介。半永続伝搬(ウイルス媒介能力が数時間から数日間持続される)することが確認されている。経卵伝染、汁液伝染、土壌伝染及び種子伝染はしないと考えられている。

寄主植物

自然感染ではキュウリ、メロン、スイカで確認されている。雑草ではオランダミミナグサ(ナデシコ科)及びクワクサ(クワ科)で感染が確認されている。また、接種試験ではズッキーニ、ヘチマ、シロウリ、ホウレンソウ、アサガオなど広範な植物に感染することが確認されている。



メロン退緑黄化病

病原ウイルス名：CCYV (ウリ類退緑黄化ウイルス) (仮称)

媒介虫：タバココナジラミ バイオタイプQ及びB

病徴など

葉の症状：発病の初期には、葉に退緑小斑点が生じ、小斑点は拡大・癒合しながら「まだら」な黄化葉となる。まだら黄化葉を下面から観察すると、多数の退緑小斑点が認められる。さらに症状が進展すると葉脈沿いに緑色部を残して葉の全面が黄化する。下位葉では不定形の大きな黄斑が生じる症状が発生することがあるが、摘葉などにより確認できない場合が多い。

病斑は、初発生葉から上方向（成長点方向）にのみ黄化が進展し、下方向（株元）への進展や異なる葉位で同時に黄化が発症することはない。



葉の退緑斑紋



株全体の黄化葉



肥大が悪く、ネットが粗いメロン果実

果実被害：メロンでは果実糖度の低下及び果実の肥大不良、ネットの発現不良など収量・品質に大きく影響を及ぼす。特に栽培初期からの感染で、被害の程度が大きくなる。

キュウリ退緑黄化病

病原ウイルス名：CCYV (ウリ類退緑黄化ウイルス) (仮称)

媒介虫：タバココナジラミ バイオタイプQ及びB

病徴など

葉の症状：発病の初期には、葉に退緑小斑点が生じ、小斑点は拡大・癒合しながら、不規則に退緑斑が拡大していく。さらに症状が進展すると葉脈沿いに緑色部を残して葉の全面が黄化し、キュウリでは葉縁が下側に巻く症状が見られる。

つる下ろし栽培では、摘葉を頻繁に行うため、顕著な病状に至る前に発症病葉が除去されている場合が多い。時期によっては要素欠乏葉や老化葉との区別が付きにくい場合がある。



葉の退緑小斑点症状

病斑は、成長点付近の数枚の葉には現れず、成熟した葉にのみ症状が現れる。

初発生葉から上方向（成長点方向）にのみ黄化症状が進展し、下方向（株元方向）へ進展することはない。



中位葉での退緑黄化症状



葉縁が下側に巻く症状の中位葉



中位から上位葉への黄化症状の進展

果実被害：キュウリでは現在のところ変形果やモザイク症状などによる品質低下などの被害は確認されていない。

スイカ退緑えそ病(仮称)

病原ウイルス名：CCYV (ウリ類退緑黄化ウイルス) (仮称)

媒介虫：タバココナジラミ バイオタイプQ及びB

病徴など

葉の症状： 初期症状は、葉に不鮮明や退緑斑紋を生じ、斑紋は増加・癒合しながら退緑斑が拡大し黄化。症状が進展すると葉脈沿いに緑色部を残して葉の全面が黄化する。スイカでは、葉の黄化に加えて黄化葉の周縁または葉脈間からえそを生じ、症状が激しい場合は葉全体が褐変し、落葉する。病斑は、初発生葉から上方向（成長点方向）に症状が進展することが確認されている。



葉脈を残し黄化した中位葉



激しいえそが生じた黄化葉

果実被害： 現在のところ不明である。生育初期から感染すると糖度不足や肥大不足などの品質低下が懸念される。